

令和3年度 第2回東近江市中心市街地活性化協議会 会議録

□日 時：令和3年8月25日 10時00分～11時30分

□場 所：八日市コミュニティセンター ホール

□出席者：委員22名中20名

(事務局)

- ・ただ今から「令和3年度第2回東近江市中心市街地活性化協議会」を開催する。
委員22名中20名の委員に出席いただいている。規約の定足数を満たしているので、本会議が成立したことを報告する。

1. 開会挨拶

(会長)

- ・外に出づらい情勢の中、委員の皆様の参加に感謝する。滋賀県下においても緊急事態宣言の発令が予定されているが、本計画も佳境に差し掛かっており、全く不要不急の会議ではないと認識している。
- ・感染症拡大防止の観点から会議運営は短時間かつスムーズに実施したい。ご協力をお願いします。

2. 東近江市長挨拶

- ・本市の行政運営、政策実現、特に中心市街地活性化への取り組みに協力を賜り、まことに感謝申し上げます。
- ・現在、東近江市では652人の新型コロナウイルス感染症の感染者がおり、県下では大津、草津に続きワースト3位である。滋賀県全体では9,346人が感染しており、緊急事態宣言が発令される予定である。ただ、滋賀県は感染源が比較的特定できている。入院率は沖縄に次いで高いものの、病床数の母数を広げることができれば入院率も下がっていく。
- ・その中で飲食事業者には時短や酒類禁止等の要請となり、さらなる飲食店事業者へのダメージが予見される。国が3,000億円の臨時交付金を交付し、東近江へは9,800万円程度の交付金が充当される予定である。有効に使っていききたい。
- ・中心市街地活性化はまだまだ道半ばであると感じている。しかし、ホテルの誘致や新地の修景事業、47店舗の新規出店、マンション建設等、この間の取り組みが実を結びつつある。アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、八日市駅周辺の活性化につなげていきたい。
- ・なぜ中心市街地に力を入れているか。東近江市は合併を経て11万人規模の都市となった。10万人を超える規模の都市には、市民が買い物したり、みんなで集まったり、楽しく遊んだりできるまちなかが必須である。しかし、従来そのような取り組みはされてこなかった。
- ・東近江市の商業中心性指標は0.85であり、近隣の彦根市や近江八幡市、甲賀市へ購買行動が流出している。行政主導、民間の協力を仰ぎながら、市内に買い物ができる環境を作っていくことが市の役割だと考えている。
- ・ホテル誘致により、宿泊施設が確保された。安定的な宿泊環境が整備されたことで観光施策を打ち出していくことができる。東近江市には聖徳太子ゆかりの寺社仏閣が集中している。八日市を

拓いたのは聖徳太子と言われている。他にもまだまだ磨くことのできる歴史や文化資源が多くある。

- ・近江鉄道が危機を迎えている。存続は決定したものの、令和6年以降の上下分離までにどこまで沿線地域が頑張れるかが重要である。今頑張れば日本の現在の状況下で、地方の私鉄を有する独自のアイデンティティを持つ東近江市という都市が形成されていく。
- ・商業施設の充実は行政の責任のもと実施していく必要があると考えている。特に服飾関係がウィークポイントであると考えている。必要な取組を行っていきたい。
- ・官民連携により、東近江市の10年、20年先を見据えた中活計画の議論をお願いする。
- ・コロナ感染対策に配慮いただき、コロナ禍での出席に感謝する。

3. 委員紹介

(委員)

- ・3年周期の輪番制で八日市商店会連盟会長を担当している。本計画にも尽力したい。

4. 議題

(1) 令和3年度第1回東近江市中心市街地活性化協議会について

(事務局)

- ・《資料2について説明》
- (委員)
- ・意見なし

(2) 第2期東近江市中心市街地活性化基本計画の策定に向けた動きについて

(市)

- ・《資料3について説明》
- (委員)
- ・意見なし

(3) 第2期東近江市中心市街地活性化基本計画(素案)について

(市)

- ・《資料4、5について説明》

【意見交換】

(委員)

- ・駐車場に関する記載は素案の中でいくつか盛り込まれていたものの、駐車場面積等の現状や中心市街地全体としてどのようなあり方を目指し、どういった施策を実施していくのかが見えてこなかった。
- ・駐車場整備は行政がリードしながら進めていくべきでは。中心市街地にアクセスの良い安価な駐車場があると商業の活性化にもつながる。

(市)

- ・第1期計画時から、まちづくり公社が運営主体として本町商店街に近接する駐車である Boo Boo Park を運営している。また、ネット予約の駐車場が若い世代に普及していることを背景として、まちづくり公社がタイムズと提携し、ネットから駐車場を予約できるサービスの実証実験を行った。
- ・第2期計画では、市有地活用事業の中で駅前ロータリーに時間貸駐車場を整備することを予定している。新たに駐車場を増やす整備だけではなく、ソフト面での取り組みでカバーしたいと考えている。

(委員)

- ・何を目標にしているのか分からない。

(市)

- ・中心市街地の駐車場の状況として、月極駐車場が多い。自家用車での訪問者が多い中で、時間貸し駐車場に転換していきたいと考えている。
- ・具体的には、駅前ロータリーに8台分の時間貸し駐車場を設置予定である。また、近隣に時間貸し駐車場化の依頼をしている。駅前ロータリーと合わせて、現在20台を超える分の確保を見通している。

(委員)

- ・人口増減等については目標があるが、駐車場整備台数の目標はないのか。

(市)

- ・台数目標の設定が難しい。需要が見込みづらい。

(委員)

- ・根拠がなければ目標を立てられないのであれば、他の目標でも同義ではないか。
- ・目標の無い取り組みは、検証もできないのではないか。

(委員)

- ・本計画に位置づける事業として、区画整理事業のように整備場所や整備台数目標を具体的に盛り込むことができないということは理解している。
- ・ただ、駐車場があれば民間の出店意向も刺激する。中心市街地は約158haであり、駅前駐車場のあり方も含めて、大胆に絵を書いていくべきではないか。

(委員)

- ・商工会議所は駅前ビルへの移転に向けて準備を進めている。現在、商工会議所の裏手には約60台収容可能な駐車場がある。駅前ビル移転時にも駐車場の確保が求められている。仮に確保できないとなると、まちなかキャンパス事業が実施できない。

(委員)

- ・商工会議所の駐車場確保が決まっていないことに驚いている。来街者誘致に向けて、駐車場台数は多いに越したことはないのかもしれないが、近江鉄道とのバランスについても検討が必要。
- ・延命公園の整備に向けて、1期策定時にワークショップをしたが、方向性は定まっておらず、宙ぶらりんの状態であると認識している。2期でどうまとめていくのか、またどう進めていくのか等について協議の場を設定していただきたい。

(市)

- ・延命公園の整備については、以前の協議会で質問をいただいた時から進捗はない。
- ・整備を進めていく段階になった際には、一緒に協議を進めていきたい。

(委員)

- ・ハイキングコースの整備を進めている。
- ・その中で、太郎坊宮前駅と市辺駅に設置しているウォーキングマップの老朽化が進んでおり、リニューアルを計画している。以前、各所でのまちづくりサイクリングマップ設置活動に共感していただいた地元の方に、100万円の寄付を頂いた。その寄付金を、リニューアルの費用に充てることに決めた。
- ・また、延命公園に桜や紅葉の植樹を、シニア団体が中心となり関係団体に働きかけをしている。まちづくり協議会としても支援していければと考えている。支援依頼があった際は、ぜひ前向きにご検討いただきたい。

(委員)

- ・令和3年8月2日内閣府幹部ヒアリングの際に対応された幹部の役職と氏名を知りたい。内閣府のプロパーか。

(市)

- ・内閣府のプロパーではなく、国土交通省や総務省等の各省庁から内閣府に出向中と聞いている。

(委員)

- ・詳細に関して後ほど教えて欲しい。

【アドバイザーからの意見】

(アドバイザー)

- ・駐車場整備に関する議論では、具体性が欠如していることが課題ではないか。第1期計画をふまえて、反省すべき点や事業ノウハウが蓄積されている。可能な範囲で個別事業ごとにワークショップやウォーキンググループを組成し、その場で検討してはどうか。
- ・まちづくりは事業実施で完了するわけではない。運営を視野に、まちづくり公社だけでなく、官民が一体となり検討してもらえると良い。
- ・住まいる事業には期待がある。子育て支援と合わせて実施してもらいたい。

- ・SATSUKI-RO の活用は、学生利用や子育て支援など他事業との連携を詳細に検討してもらいたい。駅前市有地に対する利用についても同様である。
- ・ウォークブル事業は、細かいスペースの利活用を、事業化を見据えて検討してもらいたい。
- ・まちなかキャンパスには期待がある。立命館大学は草津に約 8,000 人の学生を有しているものの、学生がまちなかにどう貢献しているのかが見えないという批判がある。地域に開かれた事業にしていきたい。

(アドバイザー)

- ・これまで、まちづくりは整備事業が中心となってきた。
- ・社会学を背景に、地方都市の調査を進める中では、神社・寺に注目する。地域の衰退をはかる指標のひとつが神社・寺が寂れているかどうかであり、東近江市の中心市街地の神社・寺は寂れつつある。
- ・ただ、公的資金を投入して神社・寺の整備をすることは理屈が立たない。住民が寄付等を通じてでしか整備できないが、プロセスは地域のアイデンティティ醸成に繋がる。自分の地域を良くするためにどう行動するかを地域住民が考えるのが重要。主役は住民自身であり、その点を考えられると良い。
- ・神社・寺以外に学校の統廃合にも着目している。
- ・中心市街地のエリアだけの事業も重要だが、周辺地域とどう連携するのか、連携することでの中心市街地の活性化の検討が重要。
- ・地域活性にあたっては、交流人口は一過性のもので、関係人口の増加が重要と考えている。駐車場問題もリンクしている。関係人口、交流人口増やすために駐車場は必要。
- ・まちなかキャンパスは良い事業である。学生がまちなかに滞在すると賑わいが生まれる。近江鉄道との連携も模索できると良いのではないか。
- ・東近江市の歴史・文化的資源は豊富であり、さらなる掘り起こしを行い、それぞれの資源を繋げるミニツアーを半月や1カ月に1回などのペースで実施できないか。

(会長)

※アドバイザーの皆様へ謝辞を述べ、進行を事務局に返す

(事務局)

- ・次回の会議は 10 月を予定しているが、新型コロナウイルス感染症や選挙日程によって変更する可能性がある。

5. 閉会